



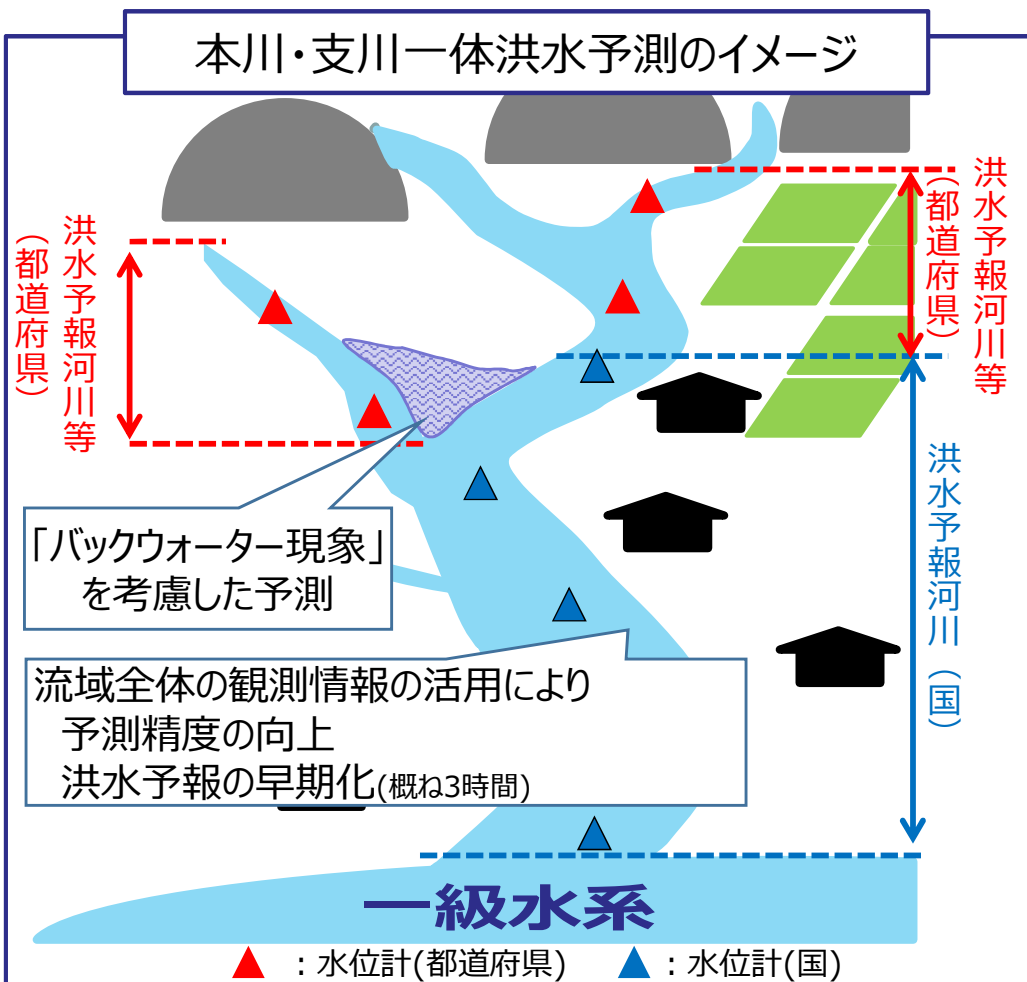
国土交通省の最近の取組について

本川・支川一体洪水予測による洪水予報の高度化

【国・都道府県による予報の高度化】

- 国の洪水予報河川において、本川・支川一体で水位予測を行うことにより、予測精度の向上、洪水予報の早期化(概ね3時間)等を図るなど、きめ細やかな取組を進めている。
- 国土交通大臣が、都道府県知事の求めに応じ、都道府県の洪水予報河川の予測水位情報を提供(※)する仕組みを構築することにより、洪水予報河川の増加や洪水予報の早期化等を図る。
(※)予測水位情報の提供について、気象業務法の予警報制限を適用除外

【水防法 新第11条の2 (新BP11)】
【気象業務法 第14条の2 (新BP2)】



都道府県洪水予報河川の洪水予報の高度化

国から都道府県に対してバックウォーター現象も考慮した長時間先の予測水位情報を提供

- **新たな都道府県洪水予報河川の指定促進**
- **都道府県洪水予報河川の洪水予報の早期化**
氾濫警戒情報(高齢者等の避難警戒レベルに相当)の発表が概ね3時間早期化(氾濫危険水位到達の3時間前 → 6時間前)

早めの避難行動を促すことが可能に

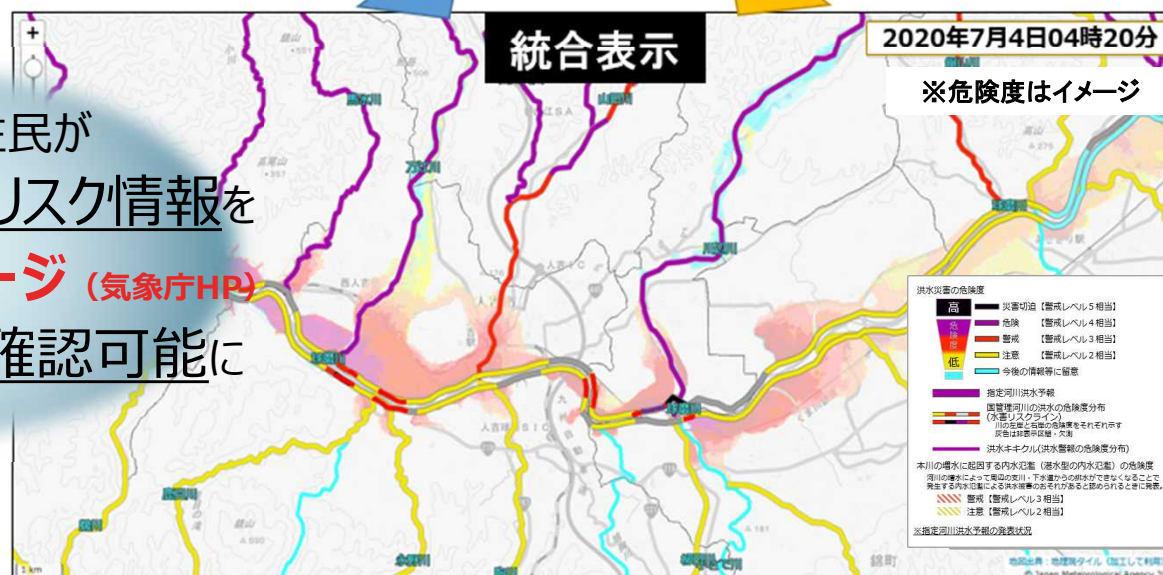
「国管理河川の洪水の危険度分布※」 (水害リスクライン)

※ 大河川のきめ細かな越水・溢水の危険度を伝える

「洪水警報の危険度分布※」 (洪水キキクル)

※ 中小河川の洪水危険度を伝える

国管理河川の詳細な予測情報は水害リスクラインで提供。



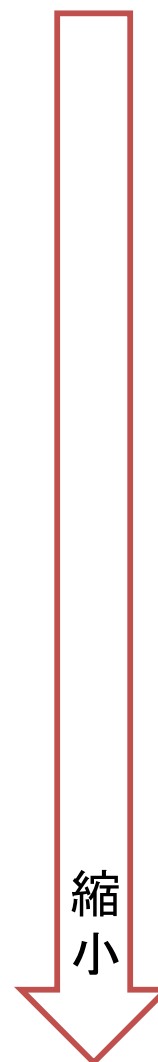
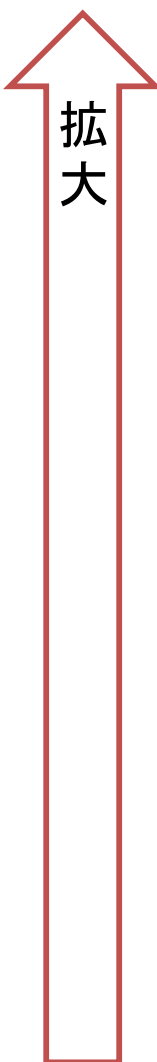
自治体・住民が
それぞれの詳細なリスク情報を
洪水キキクルページ (気象庁HP)
でワンストップで確認可能に

閲覧画面のイメージ

表示画面を拡大することにより、詳細な危険度の閲覧が可能。

- **拡大時**：「水害リスクライン」の詳細な危険度を表示
- **縮小時**：これまで通り「指定河川洪水予報の発表状況」を表示

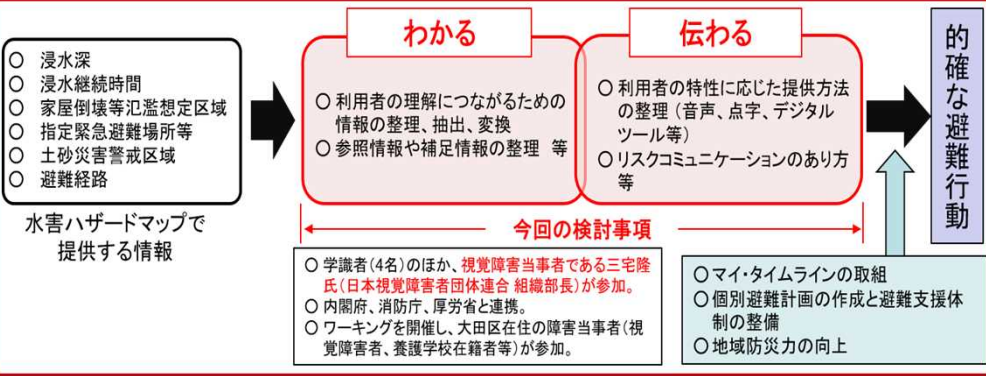
- ※ 県の指定河川洪水予報区域：
拡大時もこれまで通り指定河川洪水予報の発表状況を表示
- ※ 一定時間以上水害リスクラインが属した場合（障害等含む）：
拡大時も指定河川洪水予報の発表状況を表示



ハザードマップのユニバーサルデザインに関する検討会

- ハザードマップについては、作成は進んでいるものの、地図情報だけでは視覚障害者には伝わらないといった課題があるため、有識者や視覚障害者当事者で構成される「ハザードマップのユニバーサルデザインに関する検討会」を設置し、「わかる・伝わる」ハザードマップのあり方について検討。
- 視覚障害者、聴覚障害者、学生等から直接意見を聞く場を設けるなど、幅広く意見を伺いながら議論。

ハザードマップのユニバーサルデザインに関する検討会（令和3年12月23日～）



【委員】(◎:座長、敬称略)

- 磯打 千雅子 香川大学 地域強靱化研究センター 准教授
- 奥寺 弓子 東京都大田区 総務部 防災危機管理課 防災支援担当課長
- 梶谷 匡佑 ヤフー株式会社 メディア統括本部 メディア企画デザイン2本部 天気・災害企画デザイン部デザインリーダー
- 阪本 真由美 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 教授
- 柴田 健剛 日本放送協会 報道局 災害・気象センター 副部長
- ◎ 田村 圭子 新潟大学 危機管理本部 危機管理室 教授
- 中野 泰志 慶応義塾大学 経済学部 教授
- 三宅 隆 日本視覚障害者団体連合 組織部長

■オブザーバー

- 内閣府防災(調査・企画担当、避難生活担当)
- 消防庁(国民保護・防災部 防災課)
- 厚生労働省(障害保健福祉部 自立支援振興室)
- 国土交通省 総合政策局(バリアフリー政策課)
- 水管理・国土保全局(河川計画課 河川情報企画室、砂防部 砂防計画課、下水道部 流域管理官)
- 国土地理院(応用地理部 地理情報処理課)
- 事務局 国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

検討会の様子



ワーキング会議の様子



視覚障害者が触地図を体験している様子

手話で説明を受ける聴覚障害者

開催日	会議種別	概要
令和3年12月23日	第1回検討会	・ 課題の認識、論点整理
令和4年3月11日	第2回検討会	・ 「印刷物」「ICT(情報通信技術)」「点字や音声による代替手段」で伝えることが可能なこと ・ 今後可能になること の整理
令和4年5月23日	第1回ワーキング会議	・ 障害者当事者等による「チャットボット」「触地図」「3Dマップ」試作版の検証
令和4年7月22日	第3回検討会	・ 検討の柱を「情報・学習編の充実」「WEBアクセシビリティへの対応」に設定
令和4年11月29日	第4回検討会	・ 「情報・学習編の充実」「WEBアクセシビリティへの対応」の方向性の検討 ・ 検討会報告書の骨子案の検討
令和4年12月20日	第2回ワーキング会議	・ 「チャットボット」「触地図」「3Dマップ」改良版、重ねるハザードマップ試作版の検証
令和5年3月17日	第5回検討会	・ 報告書案について

令和5年4月26日 報告書(「わかる・伝わる」ハザードマップのあり方について) 公表

「重ねるハザードマップ」のユニバーサルデザイン化

- 視覚障害者でも、音声読み上げソフトを利用することで自宅等の災害リスクを知ることができるよう「重ねるハザードマップ」を改良。
- アイコンや地図上をクリックしなくても住所を入力する、または現在地を検索するだけで、その地点の災害リスクと災害時にとるべき行動が自動的に文章で表示される機能を追加。

従来のトップページ

ハザードマップポータルサイト
～身のまわりの災害リスクを調べる～

使い方 利用規約 よくある質問 関連情報

重ねるハザードマップ
～災害リスク情報などを地図に重ねて表示～

洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示します。

地図を見る

場所を入力
例：茨城県つくば市北郷1 / 国土地理院

表示する情報を選ぶ

洪水(想定最大規模) 土砂災害 高潮(想定最大規模)
津波(想定最大規模) 道路防災情報 地形分類

過去の代表的な災害事例をみる

更新情報
2023年3月4日 陸中県の津波浸水想定区域を更新しました。
2023年2月27日 新潟県直野川河川について、新たに洪水浸水想定区域(想定最大規模)を28河川追加しました。洪水浸水想定区域(計画規模)を新たに36河川追加しました。洪水浸水想定区域(浸水継続時間)を新たに64河川追加しました。家屋倒壊等危険想定区域(沿岸域)を新たに50河川追加しました。家屋倒壊等危険想定区域(河川沿岸)を新たに51河川追加しました。
2023年2月27日 その他河川について洪水浸水想定区域(想定最大規模)を新たに527河川追加しました。洪水浸水想定区域(計画規模)を新たに521河川追加しました。

●市町村ご担当市の情報
更新:4/2/21

本サイトのバナーはご自由に。ご自由にご活用ください。

関連リンク
防災教育ポータル 防災ポータル DiMAPS 浸水ナビ 防災教育コンテンツ

改良後(令和5年5月30日運用開始)

ハザードマップポータルサイト
身のまわりの災害リスクを調べる

使い方 よくある質問 利用規約/オープンデータ配信▼

身のまわりの災害リスクを調べる
重ねるハザードマップ

洪水・土砂災害・高潮・津波のリスク情報、道路防災情報、土地の特徴・成り立ちなどを地図や写真に自由に重ねて表示します。

地域のハザードマップを閲覧する
わがまちハザードマップ

市町村が法令に基づき作成・公開したハザードマップへリンクします。

住所から探す 住所を入力することで、その地点の災害リスクを調べることができます
例：茨城県つくば市北郷1 / 国土地理院

現在地から探す 現在地から探す
新機能(災害リスク情報のテキスト表示)について

地図から探す
地図を見る

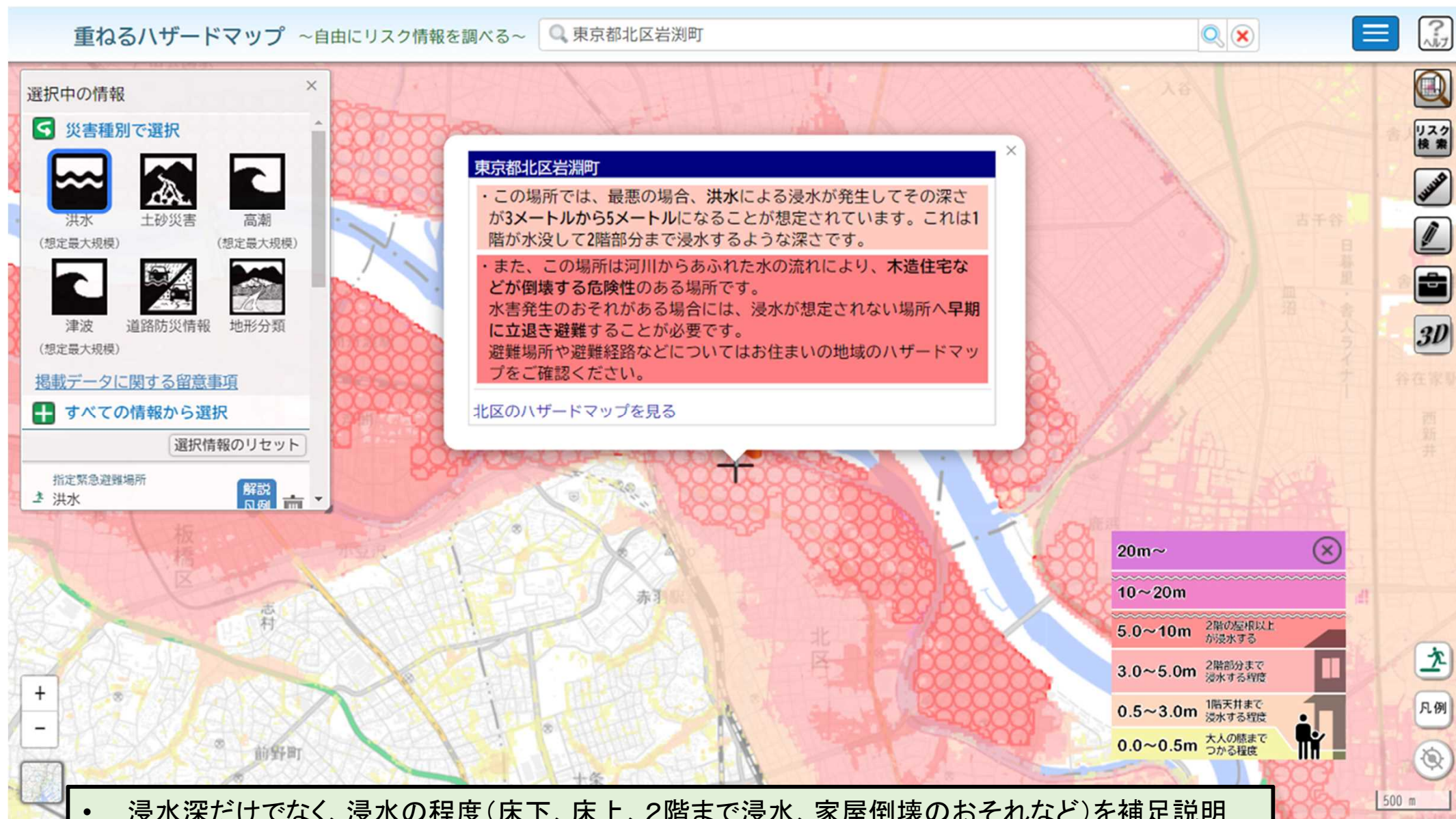
災害の種類から選ぶ
洪水 土砂災害 高潮 津波

この内容で閲覧

- 音声読み上げに配慮したシンプルな構成
- 住所入力 または 現在地検索すると、地図画面に移り、その場所の災害リスクが文章で表示される

「重ねるハザードマップ」のユニバーサルデザイン化

文章による災害リスクの説明



- 浸水深だけでなく、浸水の程度(床下、床上、2階まで浸水、家屋倒壊のおそれなど)を補足説明
- 災害時に取るべき行動(立退き避難の必要性、垂直避難や屋内安全確保の可否など)を解説
- 取るべき行動と対応した背景色によりハザードレベルが一目で分かるよう表現

「重ねるハザードマップ」のユニバーサルデザイン化



1 「ハザードマップ」で検索 🔍

2 ハザードマップポータルサイトで

住所を入力 または 現在地から探す



<https://disaportal.gsi.go.jp/>

- 「重ねるハザードマップ」では、日本全国の洪水・高潮・土砂災害・津波の危険性などが確認できます。
- 知りたい地点の自然災害の危険性や取るべき行動などが文章で表示される機能を追加しました。(音声読み上げソフトに対応することで視覚障害者にも利用できるようになりました)
- 自宅のリスクを確認し、あらかじめ避難行動計画を立てておくなど、自然災害に備えましょう。

実際に避難行動をとる際には、必ず町村の作成するハザードマップを参照してください。



午後2:00 - 2023年5月30日 - 10.4万 件の表示

住民避難に向けて

都道府県知事 (土砂災害の急迫した危険が予想される降雨量(危険降雨量)を事前に設定)

降雨量が危険降雨量に達したとき

都道府県知事
気象台

土砂災害警戒情報
(土砂災害防止法第27条)
※都道府県知事と気象台が連名で発表

通知

市町村の長

土砂災害警戒情報
(土砂災害防止法第27条)
※都道府県知事と気象台が連名で発表

周知

マスメディア等

テレビ(テロップ、ニュース速報)、
ラジオ、インターネット、
メール(プッシュ型) 等

避難指示

住民

- 知らせる努力
- ハザードマップの作成・公表
 - 防災訓練・防災教育
 - 土砂災害における様々な情報の周知

避難の声かけ

安全の確認

- 知る努力
- 地区防災計画の策定
 - 危険箇所、情報の収集

避難行動

住民避難に向けて(知らせる努力)

知らせる努力(市町村等→住民)

【ハザードマップの作成・公表】

ハザードマップを作成し公表することで、土砂災害に対する住民の関心・理解及び危機意識を向上させる。



【防災訓練・防災教育】

住民参加型の防災訓練の実施やパンフレットの作成を通じて、土砂災害に対する避難体制の強化と防災意識を向上させる。

要支援者の避難支援訓練



神奈川県箱根町

住民避難訓練(消防団による避難支援)



石川県小松市

令和4年「土砂災害・全国防災訓練」

【土砂災害における様々な情報の周知(HP等による周知)】

国土交通省のHPにおいて、土砂災害や砂防における様々な情報を周知し、土砂災害に対する住民の関心・理解及び土砂災害に対する認知度を向上させる。

令和4年には、要配慮者施設の施設管理者に対し訓練の必要性や実施方法のポイントを周知するためのリーフレットの作成・公開も実施している。

利用者の円滑かつ迅速な避難のために
要配慮者利用施設における
避難確保計画の作成・活用について



浸水想定区域や土砂災害警戒区域内等の要配慮者利用施設*では、避難確保計画の作成・避難訓練の実施が「義務」づけられています。
※市町村地域防災計画に位置づけられた社会福祉施設、学校、医療施設等

【土砂災害における様々な情報の周知 (土砂災害警戒区域標識等の標識)】

普段の生活の中で人目に付く箇所に標識、看板を設置することで、土砂災害に対する認知度を向上。



岐阜県



新潟県

国土交通省

- [1]土砂災害とその対策
 - >土砂・洪水氾濫
 - >土石流
 - >地すべり
 - >がけ崩れ
 - >深層崩壊
 - >火山災害
 - >雪崩(その他災害)
- [2]砂防の役割
 - >砂防施設のはたらき
 - >世界へ広がる「砂防」
 - >歴史的な砂防施設
 - >総合的な土砂管理
 - >河川砂防技術研究開発公費
 - >砂防の現場ではたらく人びと
 - >砂防新技術
- [3]災害リスク情報の調査・公表
 - >土砂災害防止法の概要
 - >土砂災害警戒区域等指定状況
 - >要配慮者利用施設の避難確保計画
 - >全国の土砂災害警戒区域等
 - >土砂災害危険箇所
 - >土砂災害警戒情報
 - >深層崩壊に関するリスク情報
- [4]土砂災害を知る・学ぶ・伝える
 - <降雨時>
 - <土砂災害の危険度>
 - >土砂災害関連動向 1、2
 - >量産避難体制の構築、マニュアル化
 - >避難の好事例集
 - >土砂災害防止月間
 - >防災教育
 - >その他、基礎データ

住民避難に向けて(知る努力)

知る努力(住民)

【防災教育・講習会への参加】

自治体等が実施する防災教育・講習会に参加し積極的に、参加し、土砂災害の恐ろしさ等を学ぶ努力。



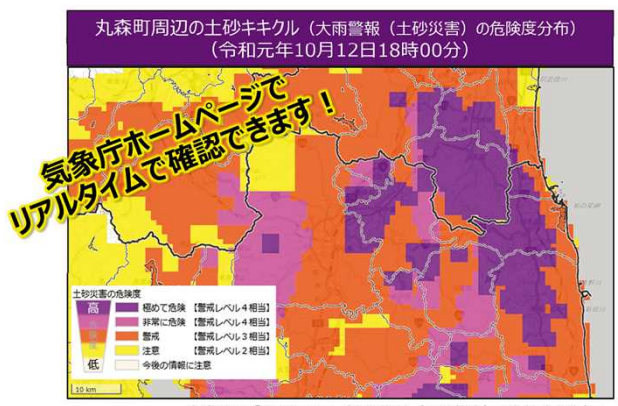
【防災訓練への参加】

住民参加型の防災訓練の実施やハザードマップを通じて避難ルート移動手段・時間等を事前に確認する努力。



【気象情報の収集】

各種メディアから防災に関する情報を収集するなど、自ら避難を判断するための情報を収集する努力。



気象庁HP「土砂キキル (大雨警報 (土砂災害) の危険度分布)」
<https://www.jma.go.jp/bosai/risk/#elements:land/>

【地区防災計画、ハザードマップの作成】

住民等が自主的に地区の防災計画(素案)を策定し、市町村へ提案する。避難時の周辺の危険性を知る努力。

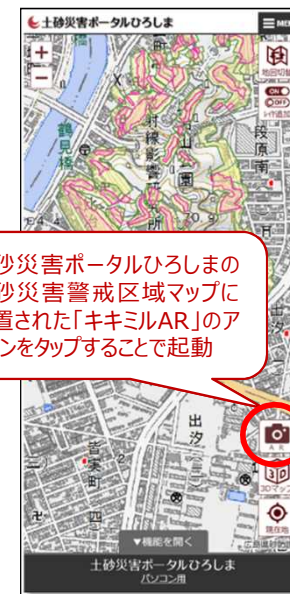


住民避難に向けて(自治体の取組事例)

キキミルAR(見える土砂災害警戒区域)

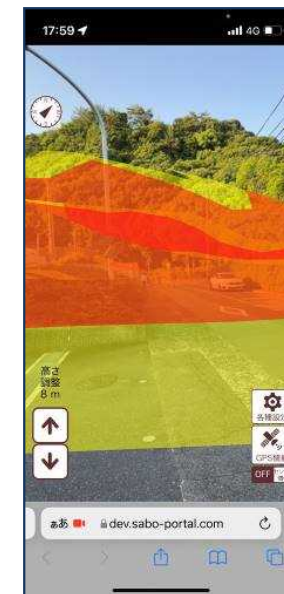


- ロケーションベースのAR(拡張現実)技術を活用し、周囲の土砂災害警戒区域等をスマートフォンのカメラ映像に重ねて表示する機能を実装
- 自宅周辺や通学路など普段からよく利用する場所における土砂災害リスクを、その場で思い立った時に手軽に確認することが可能
- 実際に見えている風景に重なるようにレッドゾーンやイエローゾーンが表示されることから、より感覚的に周辺の危険性を認識



土砂災害ポータルひろしまの土砂災害警戒区域マップに配置された「キキミルAR」のアイコンをタップすることで起動

土砂災害警戒区域マップ画面



キキミルARの画像イメージ

『AR (Augmented Reality)』とは

現実世界からの情報を元にデジタル情報を重ね合わせ、視覚的に現実を拡張した表現を可能にする技術。画像や周辺の空間を認識し、現実の映像とデジタル情報を合成した映像をリアルタイムにディスプレイ上に表示。

ロケーションベースARでは、デバイスに搭載されたGPS機能や加速度センサーにより確定される自位置や方角に連動して、地理空間情報(空間座標)に紐づいた様々な情報を現実世界(デバイスのカメラ画像等)に重複して表示することが可能

住民避難に向けて(自治体の取組事例)

3Dマップの機能拡張

- 土砂災害警戒区域の3Dマップにおいて、新たに浸水想定区域図などを重ねて表示
- 2次元では表現しづらい浸水深さを視覚的にわかりやすく表示するとともに、ビルなどの建築物についても高さ情報をもとに立体化して表現
- どの家屋がどの程度の深さで浸水するか、感覚的に理解することが可能となる



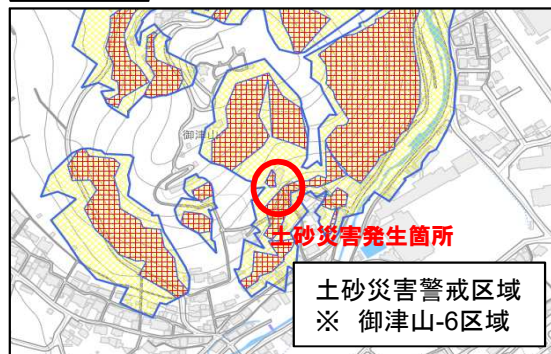
広島県3D都市マップ

ツールボックス

- 3D⇔2Dの切替
- 背景地図切替画面を表示
- 追加レイヤ表示設定画面を表示
- 表示レイヤの透過率調整
0%：不透過
100%：完全透過
- GPS機能
位置情報を取得し、
地図の表示エリアを
移動

あいちけん とよかわし みとちょう
○愛知県豊川市御津町で民家が巻き込まれる土砂災害が発生。
○被災した民家の住民は、事前に息子の家に避難し、人的被害を免れた。

平面図



土砂災害後の状況写真



令和5年6月4日12:32配信CBCテレビより



【参考】

令和5年6月2日 19:25 土砂災害警戒情報
令和5年6月2日 20:00 避難指示

令和5年6月4日配信 CBCテレビ 記事抜粋

台風2号や梅雨前線による大雨の影響で、豊川市御津町では、土砂崩れや倒木により2階建ての民家が押し潰されました。

この家に住む夫婦は被害に遭う前に息子の家に避難をされていて無事だったということで、「玄関の横に川のような水が流れてきて、それが泥水に変わって危ないと思い避難した。命が助かってよかった」と話しています。

令和5年6月8日配信 東日新聞 記事抜粋 ※個人名は〇〇に置き換え

避難をためらっていたが、近くに住む息子に説得され午後8時ごろに避難。その直後に土砂崩れが発生したとみられる。〇〇さんは「家に住めなくなって悲しいけど、妻と命が助かっただけでもありがたいです。息子に感謝です」と話した。

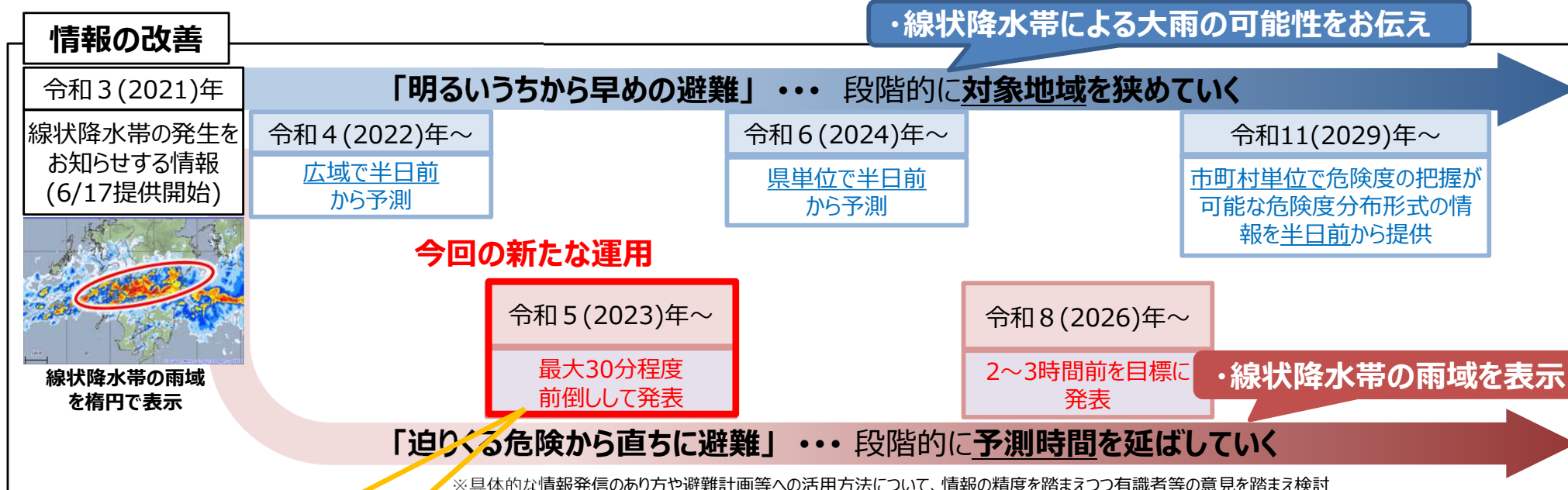
「顕著な大雨に関する気象情報」の新たな運用について

～これまでより最大30分程度前倒しして発表します～

令和5年6月 気象庁

「顕著な大雨に関する気象情報」を、より早く提供します

令和5年
5月25日～



「顕著な大雨に関する気象情報」について、現在は発表基準を実況で満たしたときに発表しているところ、予測技術を活用し、線状降水帯による大雨の危機感を少しでも早く伝えることを目指す。

加えて、以下のデータも提供

○楕円データ（線状降水帯の雨域）

⇒データ配信（事業者等向け）

○「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たした事例（線状降水帯の事例）

⇒気象庁HPの解説ページに自動掲載

「顕著な大雨に関する気象情報」の新たな運用のコンセプト

- 情報の位置づけは、現在の「顕著な大雨に関する気象情報」を踏襲する。
 - 「線状降水帯」というキーワードを用いて、非常に激しい雨が同じ場所で降り続き、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっていることを解説する情報
 - 警戒レベル相当情報を補足する情報で、警戒レベル4相当以上の状況で発表
- 本情報は、これまで発表基準を実況で満たした場合に発表してきたが、今後は「危険度の高まり」を少しでも早く伝えることができるよう、予測技術を活用し、これまでより最大30分程度前倒して発表する。
- 本情報が発表された際は、これまでと同様に、大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている状況となっていることを踏まえ、適切な防災対応をとることが重要である。

「顕著な大雨に関する気象情報」の新運用における発表基準

- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を踏襲しつつ、「現在から30分先までに雨量や危険度の基準を満たす場合」に発表する運用に変更し、これまでより最大30分程度前倒して発表する。

現行の顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

- ① 解析雨量（5kmメッシュ）において前3時間積算降水量が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を実況で超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を実況で超過

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に自動で発表

新しい顕著な大雨に関する気象情報の発表基準

現在から30分先までに、以下の基準を満たす場合に発表。

- ① 前3時間積算降水量（5kmメッシュ）が100mm以上の分布域の面積が500km²以上
- ② ①の形状が線状（長軸・短軸比2.5以上）
- ③ ①の領域内の前3時間積算降水量最大値が150mm以上
- ④ ①の領域内の土砂キキクルにおいて土砂災害警戒情報の基準を超過（かつ大雨特別警報の土壌雨量指数基準値への到達割合8割以上）又は洪水キキクルにおいて警報基準を大きく超過した基準を超過

※ 上記①～④すべての条件を同時刻に満たした場合に自動で発表

「顕著な大雨に関する気象情報」の発表例

- 線状降水帯に伴う大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている状況を端的にお知らせするため、新たな運用においてもこれまでと同じ内容で発表する。

【情報の発表例】

顕著な大雨に関する〇〇県気象情報 第1号

令和5年〇月〇日〇〇時〇〇分 〇〇气象台発表

(見出し)

これまでの情報文と同じ

〇〇地方、〇〇地方では、線状降水帯による非常に激しい雨が同じ場所で降り続いています。命に危険が及ぶ土砂災害や洪水による災害発生の危険度が急激に高まっています。

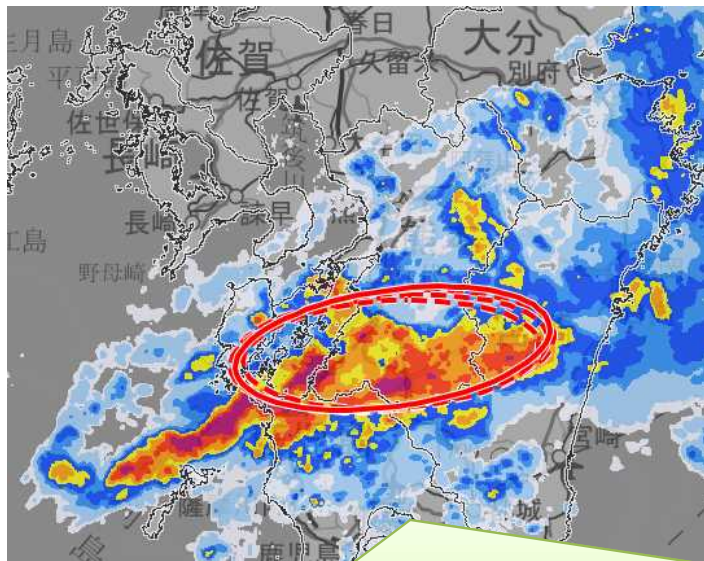
(本文)

なし

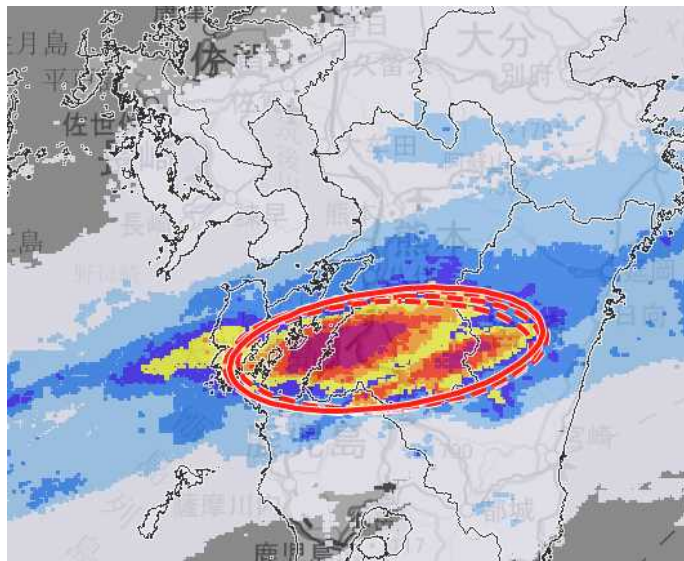
- 「顕著な大雨に関する気象情報」の発表基準を満たした地域を地図上で大まかに把握できるように、気象庁ホームページの「雨雲の動き」、「今後の雨」の地図上に赤楕円で表示する。
- 楕円はあくまで線状降水帯の雨域を大まかに示したものであり、その外側の地域でも大雨による災害発生の危険度が急激に高まっているおそれがあることに留意が必要。

【気象庁ホームページにおける表示例】

◆ 「雨雲の動き」



◆ 「今後の雨」（3時間降水量）



大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域（現在時刻の解析）

大雨災害発生の危険度が急激に高まっている線状降水帯の雨域（10～30分先の解析）

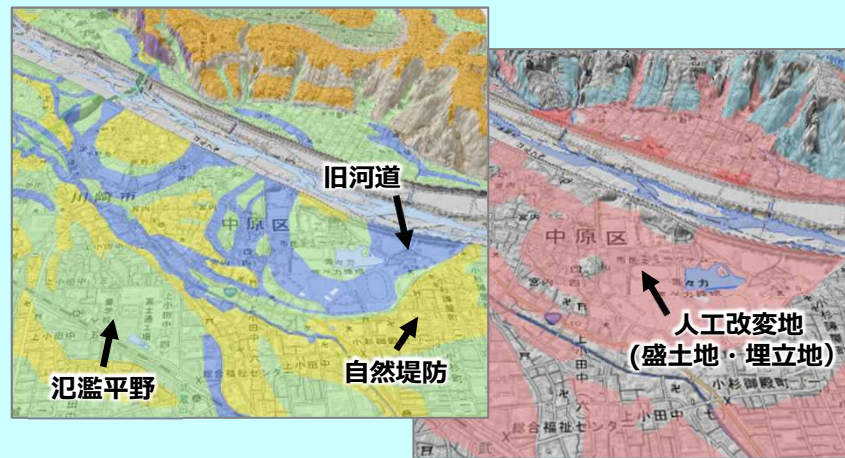
ある時刻（現在時刻）に解析された線状降水帯の雨域を実線の楕円で、現在時刻から10～30分先に解析された線状降水帯の雨域を破線の楕円で表示。

※ 楕円が表示されなくなった場合でも、すぐに安全な状況になるというものではないため、引き続き、地元自治体の避難情報や気象台が発表する防災気象情報等に留意が必要。

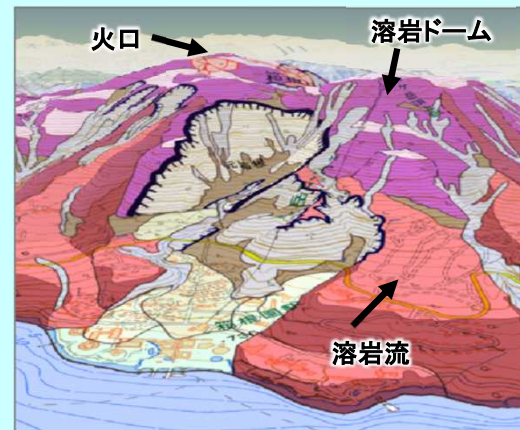
災害リスク評価の基礎となる地形分類情報の整備をいっそう進めます

近年、激甚化・頻発化する自然災害に対して、住民の適切な避難行動等に貢献するべく、より広範囲に災害リスク評価の基礎となる地形分類情報の整備を推進します。

地形分類情報 地形を形態、成り立ち、性質などから分類したもので、その土地が山地か台地か、低地かまた同じ低地の中でも高燥な土地か、低湿な土地か、あるいは自然の地形を人工的にどのように改変しているかなどを、区分したものです。



平野部の例



火山地域の例

公開



地理院地図での
地形分類情報の表示例

QRコードから
地理院地図で
地形分類情報
を見られます。



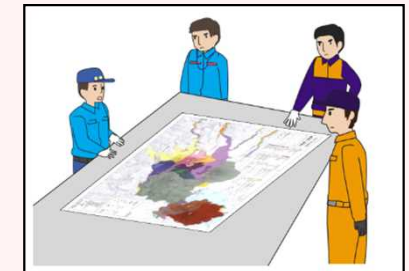
効果

- ・ 災害リスクを把握することによる防災意識の向上
- ・ 地域の潜在的な自然災害リスクの把握が可能
- ・ 地理的条件による災害リスクを踏まえた国土利用や
防災・減災対策に寄与

利用例



災害リスクを把握して
防災意識を向上



地理的条件による災害リスク
を踏まえた防災・減災対策

先人が遺してくれた自然災害の様子や教訓を示す情報の整備を進めています

自然災害伝承碑は、過去に発生した地震、津波、洪水、土砂災害、高潮、火山災害等の自然災害に関する事柄（災害の様相や被害の状況など）が載されている石碑やモニュメントです。

公開状況



掲載分布図



地理院地図での公開数は47都道府県547市区町村の1900基（令和5年5月18日現在）



自然災害伝承碑の地図記号が掲載されている1/2.5万地形図には161面（令和5年3月1日刊行分まで）

厳然たる事実として、自然災害は同じ場所で繰り返し発生します。このため、先人が遺してくれた自然災害の様子や教訓を示す情報は大変貴重なものです。

国土地理院ウェブサイト「自然災害伝承碑」のページへ、QRコードからアクセスできます。⇒



逃げなきゃコールサイトの紹介(動画・ポスター画像)

- ・昨年度、リニューアルしました動画・ポスター画像を以下のウェブサイトに掲載しておりますので
 広報等にご活用ください。

<https://www.mlit.go.jp/river/risp/policy/33nigecall.html>

説明動画

ポスター画像

説明動画をYouTubeで公開中

逃げなきゃコールって何?
大切な人が暮らす市区町村の防災情報をアプリで入手し
直接電話で避難呼びかけの取り組みです

(説明動画1 (45秒) :逃げなきゃコールとは何か、使い方等:最新版)

逃げなきゃコール
あなたの一声で避難を後押し

(説明動画2 (30秒) :逃げなきゃコールの目的等:最新版)

あなたの「逃げなきゃコール」で
大切な人を守りましょう
離れていても
「あなたの一声で」
助かる命があります

(説明動画3 (30秒) :逃げなきゃコールの説明・使い方等)

ポスター画像

逃げなきゃコール
あなたの一声で避難を後押し

災害発生時、
大切な人のために
あなたができること

逃げなきゃコール

STEP 1 特設ページへアクセス
STEP 2 アプリ・サービスをインストール

1 アプリ・サービスのダウンロード
2 災害情報の通知
3 逃げなきゃコール

NHK YouTube au docomo 国土交通省

上の画像の構型画像は[こちら](#)。上の画像も含めて逃げなきゃコールの周知目的に使用することが可能です。

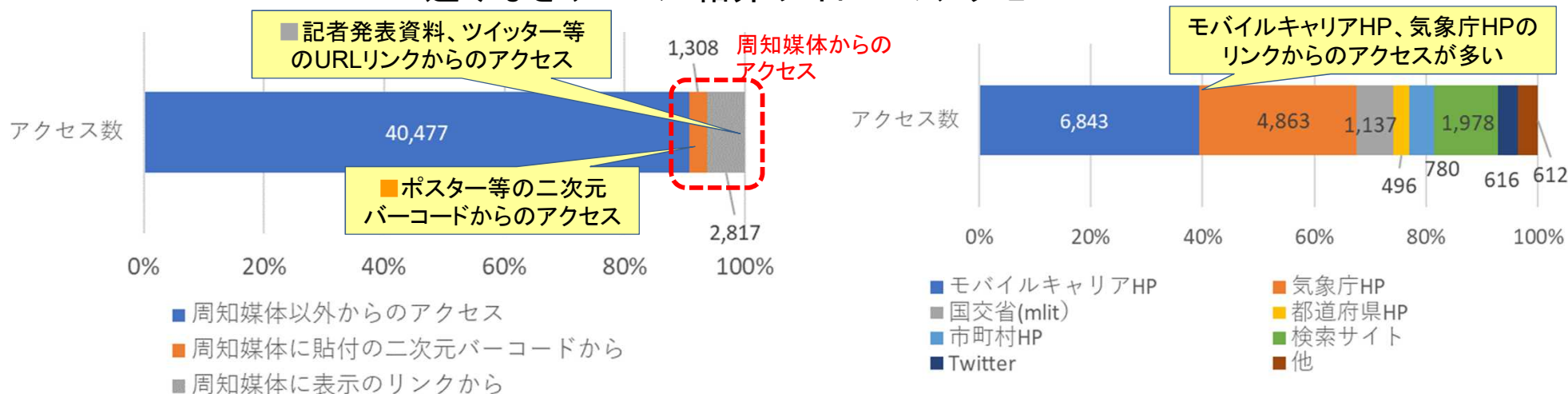
上の画像の構型画像は[こちら](#)。上の画像も含めて逃げなきゃコールの周知目的に使用することが可能です。

逃げなきゃコールサイトの紹介(リンク・バナー付与)のお願い

- R3年の国土交通省からの広報等として、記者発表、ポスター、デジタルサイネージでの動画配信、Twitter等の周知媒体を用いて逃げなきゃコールの周知を行い、それら周知媒体からの逃げなきゃコール紹介サイト (<https://www.mlit.go.jp/river/risp/policy/33nigecall.html>) へのアクセスが確認できました。
- 一方で、逃げなきゃコールサイトへ全体のアクセスは、周知媒体以外のアクセスが9割で、他機関サイト上のリンクからのアクセスが多く、他機関による広報効果が高いことがわかっております。

→引き続き、各機関サイトへのリンク付与・バナー設置等(下記等)をお願いします。

逃げなきゃコール紹介サイトへのアクセス (R3.4~12のアクセス)



周知媒体付与リンク・二次元バーコードからのアクセスと他のアクセス 遷移元サイト別アクセス数 ※遷移元不明を除く

※周知媒体: ポスター、記者発表、デジタルサイネージ動画、YouTube動画、Twitter等

バナー画像例



<https://www.mlit.go.jp/river/risp/policy/33nigecall.html>

NTTdocomo WEBサイト掲載事例

逃げなきゃコールについて

逃げなきゃコール

「どこでも災害・避難情報」は「逃げなきゃコール」に対応したサービスです。

逃げなきゃコールとは、国土交通省が推進する、離れた場所に暮らす家族に危険が差し迫った場合、家族が直接電話をかけて避難行動を呼びかける取り組みです。

☞ [逃げなきゃコール](#) (国土交通省ウェブサイト)